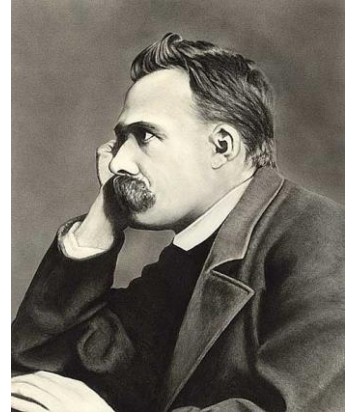


最初に自分を尊敬することから始めよう。まだ何もしていない自分を、まだ実績のない自分を、人間として尊敬するんだ。

——ニーチェ(哲学者)※

※Friedrich Wilhelm Nietzsche(1844- 1900)…ドイツの哲学者。巧みな散文的表現による試みには文学的価値も認められる。



◆ 冬期講習が始まります。

冬期講習が12月26日(受験生は23日)から始まります。受験生にとっては最後の追い込みの時期、受験を来年再来年に控えている人たちにとっては来年以降大きく飛躍するための土台づくりの時期といえます。成果を上げるための留意点を挙げておきます。

- 規則正しい生活を…この時期何かと世間は騒がしいけれど、ペースを崩さないこと！
- 予習では時間制限して問題を解く…ダラダラやっても時間のムダ。時間を決めて集中。
- 必ず復習をやる…復習をして初めて自分のものになる。演習の解き直しも忘れずに。

◆ 学力テスト市町村別成績公表

2014年度の全国学力テストから47都道府県教育委員会が市町村別の成績を公表できるようになったことを受け、30%にあたる14教委が公表することが9日、文部科学省の調査でわかった。うち7教委は前回テストから向上した教科の明示などにとどめるが、埼玉県など残り7教委は各教科の平均正答率も示すとしている。(東京新聞より)

◆ 平成27年度埼玉県公立高等学校入学者選抜学力検査採点に関する原則

- 詳しくは県のホームページで確認できますが、いくつか気になる箇所を抜粋します。
- 各教科の「採点の手引」の「採点上の注意」に「部分点を認める」と示した問題以外の問題についても、各学校の裁量で部分点を認めてもよい。
 - 次のような場合は、各学校の裁量により正答と認めて差し支えない。なお、正答と認めず減点する場合は、過度な減点を行わない。①「ひらがな」で書くべきところを、「かたかな」で書いた場合。②「かたかな」で書くべきところを、「ひらがな」で書いた場合。③漢字で書けるところを、「ひらがな」等で書いた場合。④文字そのものの正確さを問う問題を除いて、文字についての若干の誤りや不正確な点のある場合。
 - 指示に反した答え方をした解答や判読に苦しむような解答は、正答と認めない。
 - 各教科の「採点の手引」に示したものの以外の正答も予想されるので、十分留意する。

これにより高校によって採点基準に差があることがわかります。基準は上位校ほど厳しく、中堅校になるほど緩くなるのが予想されます。空欄は絶対につくらず不完全な解答でも丁寧な字で書くことを忘れてはなりません。



ネパール放浪記

世界放浪のため萌学舎を一時休職している
國吉先生から届いたみんなへのメッセージ

くによし まさと
國吉真人

—旅のはじまり—

8月31日の朝8時に成田空港を出発し、ネパールの首都であるカトマンズについたのが夜の12時。

そんな夜中なのに、空港の前は、たくさんの人でざわついていました。100人以上いるかもしれない。その人達は、みんな、「いいホテルを知っているから、そこに泊まらないか」と声をかけてくる、ホテルの客引きたちで、もちろん全員ネパール人。浅黒い肌あさぐろに濃い眉毛まゆげの男達が、周りを囲むようにして、次々に声をかけてきます。

自分は、そんな人たちの間をかきわけて、予約していたホテルの人を見つけて、ホテルに向かう車に乗ることが出来ました。車のライトに照らされる夜道には、何匹もの野良犬が、道路を横切ったり、身を寄せ合って眠っていたり。車内のラジオからは、聞いたことのないような、にぎやかな音楽が聞こえてきます。デコボコの道路に車が揺れる中、「外国に来たんだ」という実感が湧いた、そんな夜でした。

その夜から、ネパールに滞在して、あっという間に3ヶ月が過ぎ、自分はいま、インドにきています。

そこで、ネパールがどんな国だったかを振り返り、簡単にまとめてみようと思います。



—ネパールってどんな国？—



ネパールは、中国とインドの間にある、本州を半分にしたくらいくらいの大きさの国です。世界で一番高いエベレスト山があることでも有名です。最近最近は治安が良く、物の値段も安いので、世界中から旅行者が集まっています。宿屋は、日本の民宿のようなところでは一泊500~600円。高級ホテルでも、1万円あれば泊られます。食事食事も、地元の食堂なら100円~200円でお腹いっぱい。

その一方、電力が不足しているせいで、毎日数時間の停電があります。また、ソーラーシステム（太陽光発電）でお湯を

沸かしているホテルが多く、朝と夜には温かいシャワーが浴びられないこともしばしばです。大きな都市ではゴミ問題も深刻で、道路の端や川べりにはお菓子の袋やペットボトルが散乱し、目も当てられません。首都のカトマンズは排気ガスが充満し、現地の人現地の人もマスクをして歩くほどです。

しかし、街の中心部から少し離れれば、風景は一変します。地平線まで続く畑、川には澄んだ水澄んだ水が流れ、連な



る山々の間から昇る朝日の壮大さには言葉を失います。また、大きな湖のあるポカラという街の風景は、「世界で最も美しい」とも言われます。個人的には、マルファという小さな町の、真っ白に塗られた家々が、いちばん心に残りました。また、ご飯も美味しいし、カトマンズやポカラには日本料理屋も充実しています。全体的には、とても過ごしやすいで、海外旅行をするにはとても良い国だと思います。

—ネパール人との出会い—

ひとくちに「ネパール人」と言っても、もちろん、色々な人がいます。

しかし、旅の途中に出会ったネパール人には、「てきとう」な人が多かった。道を聞いても、3人に1人はでたらめを言うし、注文した料理のことは忘れるし、お釣りは間違えるし、ホテルの部屋に忘れた洗濯用の袋（ハンズで6000円もした）を取りに戻ったら、ゴミ箱代わりにされていたり（しっかりした人も中にはいますが、少なかったです）。

また、旅行者の多い街では、いわゆる「ボッタクリ」も多く、普通の10倍くらいの値段で売ろうとしてきたりもします。一番ひどかった物売りは、60ルピーのクッキーを、750ルピーで売ろうとしてきました（1ルピーは大体1円、もちろん買いませんでした）。

最初、そんなネパール人を嫌に思いました。しかし、時間がたつにつれて、ほとんどの人は、実はとても気がいいんだということがわかってきました。ぼったくろうとした

物売りなんかも、話をそらして「果物を買いたいんだけど、どこの店がいい？」と聞くと、「それなら、こっちだ」と安いお店まで連れていってくれたりします。その後、道で出会うと「ハロー、マイフレンド」なんて。

また、キルティプルという町で出会ったクマルさんという男の人は、1日町を案内してくれて、地元の人しか行かないような、眺めのいい食堂まで連れていってくれました。カグベニという町の、アンナプルナ・ゲストハウスでは、いくつものリンゴをお土産に持たせてくれました。みんな、こちらが少し心を開くだけ

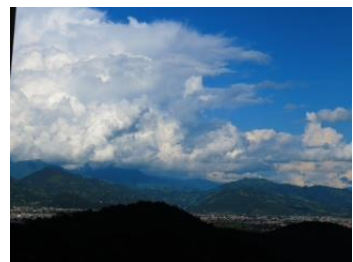


で、気づくと仲良くなっていました。

今では、日本人は少し丁寧すぎるんじゃないか、もう少し「てきとう」でもいいんじゃないかとすら思っています（ちょっとだけ。宿題はちゃんとやってね）。

—そして、日本人と出会う—

ネパールには、日本人の旅行者はあまりいませんでした。しかし、ポカラの「サンタナ」という宿や、ルンビニ（ブッダの生誕地）の日本寺には多くの日本人が集まっていて、たくさんの人と知り合うことができました。本当に、色々な生き方をしている人がいました。各国を料理修行しながら周っていて、将来は地元の石川県で食



堂を開きたいという人。ネパール人と結婚して、雑貨屋を開いている女の人。4歳の男の子を連れて、いろいろな国を巡っているご夫婦。アメリカの大学院で哲学を専攻していたという男性は、肌で世界を感じたいとその大学院を中退したそうです。3年以上日本に帰らず、グルジアという国で半年間ホテルのスタッフをしていたという、色々な楽器を弾ける人は、屋久島で民宿を営むのが夢だと語りました。九州で3件のレストランを営む男の人は、「動物は本当に食べてもいいのか」と疑問に思い、お肉が大好きなのにも関わらず、ベジタリアンになったそうです。ある男性は、「お金のために働くのはもう嫌だ」と出家し、お坊さんになって、中国語とベトナム語と英語を勉強して、いろいろな国の人と交流しています。

他にも、大学を卒業したばかりの男の子もいれば、定年退職後の男性も、会社社長もいました。

みんな、自分自身のしっかりした考えを持っていて、幸せそうに見えました。

—きみたちは、どういう人生を歩みたいのか—

萌学舎のみなさんは、勉強して身につけたことを、自分自身や、大切な人のために役立てたいとは思いませんか？

勉強は本当に大事です。未来の自分を助け、幸せな人生を得るための一番いい手段が勉強です（いい成績を取れ、ということではないです。自分なりに力を伸ばせば十分です）。しかし、勉強だけして、自分がどういう生き方をしたいかがわからないのでは、何にもなりません。将来、誰かに都合よく利用されてしまうかもしれません。

少しずつでもいいです。自分がどういう人生を歩みたいのか、日々、頭のどこかで考えていて欲しいと願います。ネパールであった日本人は、自分の人生について真剣に考え、自分の力で道を切りひらこうとしていました。

アンパンマンの歌にもありますよね。「何のために生まれて何をして生きるのか、わからないまま終わる そんなのはイヤだ！」これ、冗談抜きに、いい歌だなーと今さらながら思います。

思ったよりも長い文章になりました。みんな、受験に向けて、日々を頑張っておられると思います。

特に、小学6年生と、中学3年生は、あと一息です。油断せず、自分を追い詰めすぎず、自信を持って挑みましょう。

萌学舎の卒業式には、参加するつもりです。みんなの笑顔が見られることを楽しみにしています。



◆ 行事予定

- 12/20 2学期最終日
- 12/22 休講(事務営業日)
- 12/23・24 入試特別講座(受験学年)
- 12/25 休講
- 12/26～1/7 冬期講習会(12/31～1/2は休講)
- 1/8 休講
- 1/9～ 3学期開始
- 1/11 中3北辰テスト,小5首都圏模試
- 1/12 入試直前講座(受験学年) 【編集/加藤】